

5.2 高瀬川の砂防事業

『松本砂防のあゆみ』によれば、高瀬川兩岸は明治から大正時代まで、川岸に森林が多くありましたが、戦時中の食糧事情の悪化のため伐採され、畑や水田に変わっていきました。

鹿島川では出水が洪水、土砂流となり、開拓された畑・水田や沿岸集落に被害を与えました。信濃川砂防工事促進期成同盟会は、高瀬川流域の砂防工事促進を関係機関に陳情し、昭和23年(1948)に高瀬川直轄砂防事業が開始されました。

工事は鹿島川の猫鼻砂防堰堤に始まり、昭和26年(1951)には高瀬川本川で山ノ神砂防堰堤が着手されました(写真5.6)。

さらに、黒部川のダム建設のために、箆川沿いに建設された道路は、黒四ダムが昭和38年(1963)に完成した後、観光用道路として利用され、沿道における開発に伴い、その生命財産を保全する重要性が高まりました。そして昭和41年(1966)に箆川が直轄砂防事業に追加され、順次砂防堰堤が建設されました。



写真 5.6 山ノ神砂防堰堤の完成写真